

れんぎ
認定特定非営利活動法人 日本雲南聯誼協会

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階
Tel:03-5206-5260 Fax:03-5206-5261
Email:yunnan@jyfa.org URL:<http://www.jyfa.org/>
【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室
Tel:+86-871-3311468 Fax:+86-871-3320658

<https://www.facebook.com/NPO.JYFA> [@jyfa](#)

ブログ [雲南の郵便屋さん](#) 検索

編集・発行人 初鹿野惠蘭

印刷協力 昭和情報プロセス(株) (株)技術評論社 / デザイン Hope Company



Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

第45号

会報

発行日 2013年（平成25年）5月15日

雲南・昭通、笑顔と感動の出会い 地震被害乗り越え、待望の開校式が実現



「50の小学校プロジェクト」支援23校目の翠華鎮中心完全小学校の開校式が、協会会員やスタッフ12人も参加して5月5日に行われました。同校完成が迫った2011年3月に起きた東日本大震災のニュースは同校関係者の耳にも届き、「今は先に日本の復興を」という現地からの申し出で先延ばしされた開校式は、実に2年越しの実現となりました。

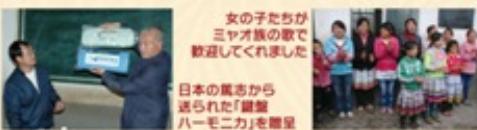
今回の開校式ふれあいの旅は、JR北海道労組の若者や雲南に留学中の大学生など若い力が牽引しました。翠華鎮小学校は、雲南省北部の中核都市昭通の中心部から北西に170km程行った、山の斜面に張り付くように開けた大間にあります。協会が支援したコンクリート造り3階建ての新校舎は「総合楼」と名付けられ、美術室や音楽室を備えた多目的校舎として活用されていました。

また今回、皆様からお預りした昭通市イ(彝)良県地震の支援金を被災小学校へ直接お届けするはずでしたが、安全面の不安から訪問できず、翠華鎮小で支援金の贈呈を行いました。支援金はイ良県で被災した子どもたちのために使われます。

翌日には協会支援第15校の木杆小学校を訪問。大闊の市街地からさらに北西へ100km程山を登った小さな村の

小学校です。協会として訪問するのは、2007年の開校式以来6年ぶり。協会の支援で建った校舎は、外観は汚れてきたものの、まだまだ現役で活躍していました。ここで一行は、雲南支部スタッフ中洲さんの指揮により「ふるさと」と「こいのぼり」の2曲を子どもたちに披露。滝澤ボランティア部長いわく「子どもたちに囲まれて、有名歌手になった気分」だったとか。お昼休みを目いっぱい使って、思い思いに子どもたちとふれあいました。

木杆小学校へ到着したのは
ちょうどお昼休みでした。
昼ご飯を抱えて帰る子たち
3年生の子どもたち



女の子たちが
ミャオ族の歌で
歓迎してくれました

日本の魔術から
送られた鉛筆
ハーモニカを贈呈



もらったばかりの鉛筆を使って勉強。
真剣な顔差しに胸が熱くなりました



老村小学校では
数年前に子どもたちが
「小さなカメラマン」として
使いきりカメラで撮影してくれた写真を見て
先生方が大盛り上がり



はるか海の向こう
からやってきた
客人に興味津々



昼休みをめいっぱい使って、
思い思いのふれあい



だいぶ汚れが
目立つけれど、
協会支援の校舎は
まだまだ現役!

多彩な民族が暮らす雲南・昭通

第23校目開校式とイ良地震支援ふれあいの旅

2013年5月4日(土)～5月10日(金)

【開校式ふれあいの旅参加者】陳不同・嶽海峰

峰尾勝美、峰尾洋子、近藤鉄一、遠藤州、竹中良典、寺田聰、外川智大、

東陽弘、滝澤崇、平田栄一、中西慶子、林慈

【現地協力団体】昭通市委統戰部、大良県委統戰部、翠華鎮中心完全小学校、木杆鎮中心完全小学校、日中友好木杆林区僑心小学校、昆明市僑匯仁德聯合會、日中友好尋甸老村僑心小学校

（河原啓一郎）

【訪問者】（敬称略・順不同）

河原啓一郎、大森たかし、

李麗霞、趙永

▼4人の若者はこの険しい

山道を4時間かけて歩き、

やつとの思いで巴坡小学校

に辿り着きました

ら応援し見守っている友人がいるということを忘れてはいません。素敵な大人になってくれること願っています。（河原啓一郎）

【訪問者】（敬称略・順不同）

河原啓一郎、大森たかし、

李麗霞、趙永

▼4人の若者はこの険しい

山道を4時間かけて歩き、

やつとの思いで巴坡小学校

に辿り着きました



一緒にかがぐるまを

秘境・独龍江！ 日本の若者と子どもたちの 心温まる交流

協会支援第16校日中友好僑心巴坡小学校

自転車での世界一周の道にある
河原啓一郎さん（28歳）は、現在
中国で様々なボランティア活動を行っています。開校式ふれあいの旅
が始まる寸前の5月2日、河原さんは
は協会支援校でも最も奥地にある第
16校巴坡小学校を訪ね、トールン
族の子どもたちと友好を深めました。

元看護士の河原さんは
自転車で世界一周を
しています

昆明からバスを乗り継ぎ25時間、まだ雪が残る険しい
山路を抜け、更に4時間山の中を歩いて辿り着いたのが
ここ独龍江巴坡地区にある秘境の学校「日中友好僑心巴

坡小学校」です。元々、同じ怒江州のミャンマー国境付
近に暮らす、国籍もなく生活が困難な人々の村を訪れる
予定でしたが、日本のNPO「日本雲南聯誼協会」が支援
をしている学校があると知り、途中の町で全校児童分の
文房具と体育用具を捐えて一路仲間と共に巴坡へと向
かったのです。突然の訪問にもかかわらず、校長先生や
村の人々は僕らを温かく迎えてくださいました。子どもたちとは工作やゲームを通して距離を縮めていました。
持参したプリンターでこの時にしかない思い出を写真に
変えてプレゼントすると、みんな大喜び。開校から数年、
国策によって生活の窮状は事前に伺っていたよりも改善
されているようです。3ヶ月後に開通するというトンネル
により、美しい自然を持つこの場所も観光地へと変わっ
ていくかもしれません。村人の間では、雪により一年
の半分以上渡って交通が遮断されてしまう状況が改善さ
れると期待する声もありました。

時代も町も容变して行きますが、子どもたちがここで
過ごした3年間のかけがえのない思い出と、遠く日本か



「25の小さな夢基金」日本語授業始まる!

長年の夢が実現! 雲南と日本をつなぐ 希望の授業

日本語を学ぶ大学生が生徒2~3人に1人の割合でぱりつき、サポートします

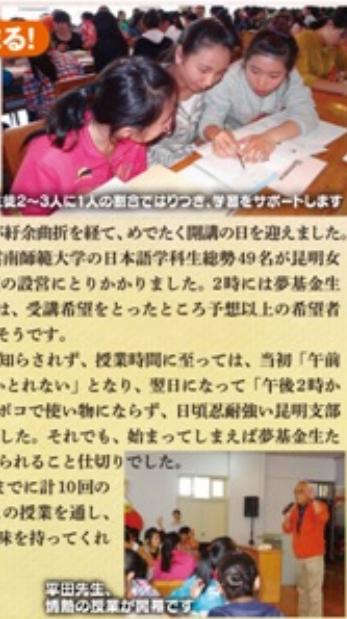
3月23日午後2時、夢基金生たちが待ちに待った日本語授業が軒丸曲折を経て、めでたく開講の日を迎ました。

午後1時半、サポートをお願いした雲南大学漁学院と雲南師範大学の日本語学科生総勢49名が昆明女子高校の正門前に集合、8階の大教室へ移動して、早速教室の設営にとりかかりました。2時には夢基金生が勢揃い。その数、なんと120名、全員1年生。学校の話では、受講希望をとったところ予想以上の希望者の数にびっくり、結局、1年生だけが受講を許可されたのだそうです。

それにしても、開講2日前になんでも受講生の正確な数を知らされず、授業時間に至っては、当初「午前9時から10時半」だったのが開講3日前の時点で「1時間しかとれない」となり、翌日になって「午後2時から3時半」と二転三転。おまけに当てにしていた黒板もボコボコで使い物にならず、日頃忍耐強い昆明支部のスタッフもぐっと堪忍袋の緒を締め直しての開講となりました。それでも、始まってしまえば夢基金生たちの日本語に対する熱意と学習能力の高さに改めて感心せられること仕切りでした。

多くの方に支えられて始まったこの日本語授業、6月末までに計10回の講座が予定されています。限られた時間ではありますが、この授業を通して、夢基金生たちが日本という国に、そして、日本語にさらに興味を持ってくれるようにならうと思います。

(平田栄一=昆明特命支部長、「夢基金」日本語授業講師)



百聞不如一見! 協会会員、昆明での 現地活動に感動

→老木壠小学校では日本から持ってきた鉛筆をプレゼント

協会会員で高校教師の平松宏子さん、同じく教師のご主人康弘さん、同僚の村上嘉信さんと娘の結さんが3月末に昆明を訪れ、協会の活動にご参加くださいました。

国語教師の宏子さんと日本語教育が専門の結さんを中心に、3月27日に雲南大学漁学院で「アジア未来への人材プロジェクト」、30日には昆明女子高校で「25の小さな夢基金」の一環として、日本語の特別授業を行いました。また28日は車で往復6時間以上かけて「50の小学校プロジェクト」支援第19校老木壠小学校を訪れ、子どもたちと交流しました。

昆明滞在は実質わずか4日のハードスケジュールでしたが、宏子さんは「実際に子どもたちとふれあって、支援のしがいを感じた」とのこと。また今回の訪問にいたく感動したという康弘さんも、正会員としてご入会くださいました。皆さん、これからもどうぞよろしくお願いいたします!



【訪問者（順不同・敬称略）】
平松宏子、平松康弘、村上嘉信、村上結

子どもたちの希望を未来へつなぐ写真展「笑顔を君に」、全国巡回中!

いよいよ北海道へ!

今夏、札幌での開催実現へ向け、 現地を視察

2011年より始まった写真展「笑顔を君に」。全国の会員のご協力のもと日本各地を巡回してきましたが、いよいよこの夏、北海道へ上陸します。協会13年の歴史で初めてとなる北海道での活動実施へ向け、初鹿野理事長をはじめとする「笑顔を君に」実行部隊の面々が、4月4日~6日、札幌市を視察訪問しました。

きっかけは札幌在住の会員の方に写真展会場としてサッポロの施設をご推薦頂いたこと。そこで当協会顧問である岩間辰志サッポロホールディングス前社長にご相談したところ、札幌市内の複合商業施設「サッポロファクトリー」が会場を提供し



▲会場協賛でご提供頂けることになったサッポロファクトリーアトリウム。ここで展示を行います



▶中国駐札幌総領事・
許金平氏（右）。
ご後援を約束して
くださいました



▲JR北海道・小池社長（前列左から2人目）と同僚組田執行委員長（前列右端）。写真展を強力にバックアップしてくださる頼もしい味方です

てくださいました。

3日間の視察訪問は、会場予定地の見学にはじまり、協会を応援してくださっている現地企業や協会会員、写真展を後援していただく中国駐札幌總領事館へのご挨拶など大忙し。また、今回の写真展では、JR北海道がフル回転してくださいます。協会会員の組田寛执行委員長率いる労組のメンバーが搬入や搬出を引き受けくださる他、一昨年より賛助会員として応援いただいている小池明夫社長からは企業協賛のお約束も頂きました。さらに、現地の大学生が協会ボランティアとして視察に参加、初めてご挨拶に伺った北海道日中友好協会では北海道国際交流協力総合センターをご紹介頂くなど、人と人の輪がみるみるうちに広がりました。

縁が繋を呼び、たくさんの人の巻き込んで、今年8月、過去最高規模の「笑顔を君に」が札幌で開催されます。北海道にお住まいの皆さん、どうぞ楽しみにお待ちください!

▶北海道日中友好協会の
皆さんも温かく迎えて
くださいました



【視察訪問者（順不同・敬称略）】初鹿野恵蘭理事長、近藤鶴一郎吉屋支部長、浅澤崇、鈴木暉、大崎功雄、谷津志保里、解野佳麻理
【現地協力（順不同）】中華人民共和国駐札幌總領事館・許金平駐領事、隋萍領事、サッポロ都市開発株式会社・高澤直哉さん、池田政嗣さん、JR北海道・小池明夫社長、横山浩二秘書室長、JR北海道労組・鍛田寛司中央執行委員長（賛助会員）、小林陽介書記長、橋本哲也執行委員長、船橋龍司業務部長、酒井勝喜執行副委員長、高橋秀季企画相談部長、杉山涉企画部員、竹中良典さん、北海道日中友好協会・町田真英理事長、西川泰子事務局次長、山下泰生事務局長、公益社団法人北海道国際交流協力総合センター・高橋了副会長、加藤修部長、株式会社ほくやく・志田佳信さん、東邦薬品株式会社・松島義智さん



全国巡回写真展「笑顔を君に」
市ヶ谷JICA地球ひろば
2月11日(月祝)~23日(土)
ひの社会教育センター

4月10日(水)~17日(水)
「少数民族の暮らすアジアの秘境～雲南と出会う」
4月13日(土)10時~12時

【ボランティア協力（順不同・敬称略）】川口邦夫、
佐々木英介、浅澤崇、東郷浩、大崎功平、鳥羽清弘、
寺内明子、中村有里子、林則幸、初鹿野仁、初鹿野恵蘭、その他当日お手伝い下さった皆様



「笑顔を君に」札幌開催 実現にご協力ください!

企業/個人の皆様のご協賛・ご寄付を募っています

写真展「笑顔を君に」は、2010年の協会設立10周年を機に、雲南少数民族の現状や協会の活動についてより多くの皆様に知って頂こうと企画され、2011年から全国の会員の皆さんのご協力で開催して参りました。日中関係に波風の立つ今、雲南の魅力ある風景や奇麗な環境でたくましく生きる子どもたちの姿を日本のの方々に知って頂くことは、とても大きな意義があります。小さな草の根の交流の積み重ねが、日本と中国の関係をやがて前向きなものに変えていくと私たちは信じているからです。

今回、たくさんの皆さんのご協力により、これまでの「笑顔を君に」とは一線を画す、見たえのある写真展を札幌で開催できることになりました。当協会にとどまらず北海道での活動は初めてで、雲南少数民族や協会の活動について少しでも多くの皆様に知って頂こうと期待に胸を膨らませています。ただ、せっかく立派な会場を使わせて頂けるものの、過去最高の規模とあって、資金面では厳しい状況におかれているのが実情です。そこで是非、写真展の主旨にご賛同くださる皆さんにご協賛・ご寄付を耀りたく、謹んでお願い申し上げます。

お問い合わせ・ご連絡先

03-5206-5260

(平日10時~18時)、yunan@jyfa.org

◀日野イベントではおなじみ
少数民族の踊りも体験!



▶雲南料理を用意する
厨房は戦争状態でした

雲南を「味わう」イベントも開催!

「笑顔を君に」、2013年第1弾は2月11日から23日、協会東京本部事務局に近い市ヶ谷のJICA地球ひろば2階展示スペースで開催されました。日頃から様々なNGO団体が展示を行っている会場で、多くの方に協会活動や雲南の少数民族について知って頂くことができました。

4月10日から17日には、ひの社会教育センター（東京都日野市）で通算第11回目を開催。日野市在住の中村有里子理事にご協力頂きました。会場では連日様々な市民講座が行われており、老若男女多くの皆さんが雲南の子どもたちの笑顔に足を止めて下さいました。

写真展開催中の土曜日には同会場でイベントも開催。ボランティアを含む35名の参加者に、中村理事や初鹿野理事長が雲南の食文化や少数民族の暮らし、協会の活動を紹介しました。後半は協会寺内明子大宮支部長が腕をふるった雲南名物「過橋米線」に舌鼓を打ちながら交流。日本では滅多にお目にかかる本格的雲南料理は大好評でした。当日飛び込みでお手伝いくださった皆さんを含め、多くの方のご協力のもと、目で、耳で、舌で、雲南を楽しむイベントは大成功に終わりました。

連載

こんにちはCSR

第8回 ○ サッポロホールディングス株式会社

会社概要 ■ 1976年開業の「開拓使麦酒醸造所」を前身に持つサッポロホールディングス株式会社。さまざまな飲料、食品の生産のほか外食事業などを展開しています。「開拓を創造し、豊かさに貢献する」を経営理念に掲げ、こだわりの製品を通じ、楽しく豊かな生活づくりを目指しています。

所在地 :〒150-0522 東京都渋谷区恵比寿西1丁目20番1号

同社の前社長で名誉顧問の岩間辰志さんが2007年4月、新宿で開かれた第一回初鹿野恵慶写真展に足を運んでくださったことがそもそもきっかけでした。子どもたちや老婆の笑顔に魅せられた岩間さんが初鹿野理事長に「素晴らしい表情の写真だねえ、誰が撮ったの？」と尋ねたのが縁の始まりだったとか。

出会いを契機に個人会員になった岩間さん。実は「エビスビール記念館」の名譽館長でもあります。初鹿野理事長が「ビール記念館でも写真展をやらせてもらえないか？」とお願いし、サッポロホールディングスの快諾を頂いたのが、その後お世話になりました。同社の協賛を頂き、2008年4月にビール記念館で開かれた第二回写真展の来場者は実に1400人にも達しました。

また、協会恒例の忘年会が同社の恵比寿BEER STATIONで行われているのはみなさんもご承知の通り。これも「パカラのシャンデリアが飾られる時期なので、銀座より恵比寿がいいだろう」と、年末の書き入れ時に人気施設を貸切りにしてくださっているのです。そして、今年は協会初となる北海道での写真展を、1876年に開業した日本初のビール工場「開拓使麦酒醸造所」の跡地、札幌市内の「サッポロファクトリー」で行わせて頂くことになりました。

企業だからといって単にお金を出すだけじゃダメだ。謙虚に人と人の心をつないでいく、静かに草の根の運動を続けて地球を住みやすくする、そういう社会貢献も必要だと協会への支援を続けてくださっています。まさに「男は黙って・・・」。こんなさりげない優しさのある大企業って、そうはないような気がしませんか？

◆夢基金サポートーでもある岩間さん。昨年6月にはわれわれの旗で初めて雲南省を訪れ、支援生徒と活動の対話を実りました



※CSR=Corporate Social Responsibility(企業の社会的責任)：利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任をもつこと

協会を支えてくださる

協力企業からのメッセージ



協会ボランティア通信

連載 第7回

さいたまの肝っ玉お母さん

寺内明子さん

日本に来て20年弱、
健脚と行動力に魅かれて
居がかります



中国雲南省玉溪出身の寺内さん

は1994年、結婚を機に来日しました。その後、自宅近くの日本語教室でボランティアの日本人に優しくしてもらい、ボランティア活動に興味を持ちます。故郷雲南のために何かしてあげたいと思っていた矢先、中國語の新聞に載っていた協会発足の記事が目に入り、設立大会の約半年前に入会しました。

日本を感じたのは「お年寄りも新聞を読んだり、識字率が高いこと」。協会が支援する雲南の山村では、小学校を2,3年でやめなければならない子どもも多いのです。寺内さんによれば「私の友達で正規の中学に行ったのは2割弱。先生も経験はあっても学歴は低い人が多い」とか。そこで「教育水準を上げれば自分たちの力で生活を改善できるはず」と、協会の活動に力を入れるようになります。また、「小さいころに外の世界を知ることができれば世の中の見方が変わる。ずっと山で暮らしていると自ら何かしようという原動力が育たない」と教育支援の意義を指摘します。

協会活動について「団体としてイベントに参加すればもっとアピールできる」と2007年に大宮支部を設立。地元の各種イベントではすっかり常連となり、今年のさいたま国際友好フェアでは200人の方々が民族衣装を試着、ブースの中はてんてこ舞いだったとか。寺内さんは言います「自分の喜びだけではボランティアは続きません。素晴らしい人たちと出会い、多くのものを得られるから続けられるんです」。

さいたま地域の皆様へ寺内さんによる感謝の挨拶

東京商工会議所で「ASEAN経済の要衝・雲南」をPR!

大メコン経済圏の中核として、日に日に存在感を増す雲南省。日本ではまだ知名度の低い雲南ですが、最新の経済状況を多くの企業関係者に知っていたところ、協会と日本産業投資技術促進株式会社、雲南省招商合作局の三者共催で4月26日、「ASEAN経済の要衝・雲南省経済セミナー」を開催しました。

講師を務めたのは福岡アジア都市研究所の唐寅主任研究員。唐さんには、東南アジアなど新興市場国の目覚ましい成長を背景に急速に高まる雲南の重要性や、中国経済における雲南の位置づけについて、自らの調査と研究に基づく独自の視点から解説いただきました。出席した32名の企業関係者からは活発に質問が出され、事後アンケートからも大いに手応えを感じました。

また、当日は中国大使館の劉亞明総領事も出席され、雲南の将来性についてお話しをするとともに、協会の長年に渡る交流活動への謝辞もいただきました。

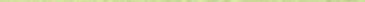


独自の視点から鋭い分析を披露する唐寅先生

会場には偶然日本視察に訪れていた雲南企業関係者も、劉亞明総領事とご挨拶



セミナー終了後、唐先生の前にはあっという間に名刺交換の列ができました



♪音楽が結ぶ♪

糸

東日本大震災支援交流は続く



佐藤副社長(右)と
アーティスト代表の
Ji-zoさん(中央)

音楽レーベルBIGMADE MUSICの皆さんとが昨年3月と9月に続き、今年3月にも「東日本大震災支援交流プロジェクト」にご寄付くださいました。所属アーティストがそれぞれの思いを込め、CDの収益やライブ活動で集めた募金を、佐藤真治副社長とアーティスト代表のバンドヴォーカルJi-zoさんが協会に届けてくださいました。

3月24日には、初鹿野理事長がBIGMADE MUSIC主催のライブを鑑賞。理事長にとって初めてのライブハウス体験は、生きた音楽に触れただけでなく、若く才能溢れるアーティストの皆さんと情熱と信念を持って協会活動を応援してくれていることを実感する場となり、幾重もの感動に包まれたようです。皆さん、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

ライブでは江藤社長のバンドTokyo Isis-famが格好良い演奏を披露。
(写真はPersonna Non Grataの皆さん)
才能ある若者の志に、改めて感謝!



着実に広がる草の根交流の輪 東京本部と大宮支部、初めての合同会議&懇親会開催!

聯誼協会大宮支部は、2007年の設立以来、独自の活動でさいたま地域の雲南ファンを増やし続け、いまや協会にとってなくてはならない存在です。その活動を支えてくださる会員・ボランティアの皆さんに改めて感謝を伝えるとともに、未来を担う子どもたちの支援という目的を持つ仲間としてより一層親睦を深めようと、3月19日、協会東京本部で初めての合同会議と懇親会を開催しました。

自己紹介から始まった会議と懇親会は大いに盛り上がり、開催時間はなんと5時間近くに。日頃ゆっくり話す機会のない会員・ボランティアの皆さんから、協会活動に対するそれぞれの熱い思いを存分にうかがえたほか、合同イベントについても話し合うなど大変有意義な時間になりました。こうした地域の皆さんのが感謝と情熱に支えられ、協会の活動は少しずつ広がっていくのだとつくづく実感した夜でした。協会を応援してくださっている皆さん、改めましてありがとうございます！

【当日参加者（敬称略）】

【東京本部】初鹿野恵慶理事長、中村有里子理事、東郷浩顧問、滝澤徹ボランティア部長、林則幸、佐々木英介、事務局職員（篠宮子、山田美葉）

【大宮支部】寺内明子大宮支部長、鳥羽清弘事務局長、川口邦夫、丸田智代、青柳茂樹、脇部恵美子



TOPICS**◎3月8日は国際婦人デー！女性の力が世界を変える**

毎年恒例となっている中国大使館の国際婦人デー記念パーティー。今年も安倍首相夫人昭恵さんをはじめ、日本各界や在日華僑を代表する女性、それに大使館の女性外交官合わせて400名ほどが参加し、盛大に行われました。当協会の初鹿野理事長も毎年ご招待を受け出席していましたが、今年は生懸の急務で、代名として職員の萬さんが初めての参加を果たしました。萬さんは汪親中國大使夫人、安倍昭恵首相夫人の「社会で活



中国大使館・劉麗明副総領事（中央）、萬姫さん（左）と

◎恒例！大宮支部春節パーティーは過去最高の人出

中国が本年の新年を迎えるのは1月1日の元旦ではなく、春節（旧正月）。今年の春節は2月10日でした。

この春節の日を、協会の仲間も上尾で楽しく迎えました。毎年旧正月の時期の恒例となっている大宮支部の新春パーティーですが、今年はまさに春節当日の開催となつたため、危機感も「春節パーティー」に、例年以上にたくさんのお客さんが集まり、会場の上尾文化センターは熱気で溢れかえりました。

上尾は国際色豊かな街で、この日集まった皆さんも、半分近くが日本の方でなかったよう。様々な言葉が飛び交う、なんともインターナショナルな1日となりました。こうした小さな華の絆交流が、上尾から日本全体へ、そして世界中へ広がればいいですね。2013年も良い年になりますように！

【ボランティア協力（教説部・藤井）】鳥羽潤弘、川口邦夫、青柳茂樹、白石誠、鄭靖、服部由美子、丸田智代、大庭篤雄、牧原、寺内憲一、寺内明子支部長、他たくさんの方Q

●江戸川人生総合大学生、只今フィールドワーク中！

今年1月、東京都江戸川区の生涯学習機関「江戸川総合人生大学」で初鹿野理事長が授業を行ったのは以前もお伝えした通り。大変嬉しいことに、その授業がきっかけで、その後の調査研究のテーマに「雲南」を選んでくれた生徒さんがあいらっしゃいました。雲南と中国の少数民族を研究テーマとしたのは西岡葉子さん、吉田誠男さん、岡崎国伸さんの3人。調査研究のため、3月と4月に一度ずつ協会事務所にいらっしゃり、それぞれ初鹿野理事長と雲南出身の顧問会員をインフォーマントとして、詳細な聞き取り調査を行いました。皆さんの情熱は、初鹿野理事長も頗る感心したものでした。毎回の聞き取り調査は2時間近くに及びました。研究成果の発表が待ち遠しいですね。



雲南への興味がつきないわ三方

イベント情報**25の小さな夢基金****第4回「夢は叶う」講演会**

講師：加藤丈夫さん（富士電機株式会社元会長）
日時：5月18日（土）
場所：昆明女子中高等学校（中国雲南省昆明市）

アジア未来への人材プロジェクト**第1回日本雲南学生フォーラム**

「ドラえもん、鉄瓶アトム、クールジャパン…日本人の創造性と日本経済」

パネリスト：加藤丈夫さん、

新井淳一さん（協会顧問・日本経済研究センター理事）

日時：5月19日（日）

場所：雲南師範大学外国语学院（中国雲南省昆明市）

共催：雲南大学漢語学院、雲南師範大学

協賛：メディネットインターナショナル㈱

合同写真展「アジアの子どもたち」

日時：6月6日（木）～9日（日）

場所：八王子学園都市センター

第2ギャラリーホール（東京都八王子市）

合同主催：21世紀のカンボジアを支援する会／他

第13回日本雲南聯誼協会定時総会

日時：6月16日（日）10時～12時

場所：八王子学園都市センター第5セミナー室（東京都八王子市）

全国巡回写真展**「笑顔を君に」inさいたま 3rd**

日時：6月16日（木）～20日（木）

場所：さいたま市市民活動サポートセンター（埼玉県さいたま市）

初鹿野恵蘭理事長講演（仮）

日時：6月20日（木）

場所：立命館アジア太平洋大学（大分県別府市）

コーディネート：学生サークル「笑xiao」

25の小さな夢基金ふれあいの旅

日時：6月29日（土）～7月5日（金）

場所：中国雲南省昆明市、シーサンパンナ・タイ族自治州

25の小さな夢基金**昆明女子校と上海日本人学校交流事業**

日時：7月8日（木）

場所：中国上海市 協賛：メディネットインターナショナル㈱

全国巡回写真展**「笑顔を君に」in 札幌**

日時：8月19日（月）～23日（金）

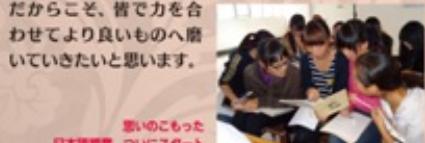
場所：サッポロファクトリー（北海道札幌市）

後援：中華人民共和国駐札幌總領事館

協賛：サッポロファクトリー／JR北海道／他

中洲夢の 昆明レポート

「決まっていたことが土壟場になって変更になる」雲南では、こんなことは結構あります。今学期スタートした「25の小さな夢基金」日本語授業も、土壟場まで変更の連続でした。思い起こせば去年9月、日中問題の影響で開催を断念、校長先生の熱意に後押しされ、今年新学期からの開催が決まったものの、その後も日程や内容は変更続き。通常授業の平日から土曜日の課外授業にしたり、1回2時間を1時間間に短縮したりと直前まで調整が続きました。そしてようやく迎えた第1回。100人を超える生徒が目を輝かせて日本語を学び始めました。この授業は、雲南大学漢語学院や雲南師範大学の日本語専修生もボランティアとして参加する総勢200名の一大プロジェクトだからこそ、皆で力を合わせてより良いものへ磨いていきたいと思います。

**編集後記**

現在PM2.5を初め、さまざまな公害が中国で蔓延し、日本側は飛んでくるPM2.5に迷惑感です。公害先進国の日本には伝えるべき教訓と技術があるにも関わらず、外交問題がそれを遮り、中国の公害は広がるばかり。環境保護は中国と日本だけの問題ではなく、国境を越えた地球規模の問題です。両国政府が強硬な態度を取り続けることで、国民がどれほど多くの損害を被っているか早く気付いてほしい。雲南や日本の素晴らしい自然を損なわず、美しい地球で子供たちが健やかに育つために。（編集長・木本一彰）

南里会員の「悠とぴあ」便り 第2回 福島由来「たけちゃんトマト(小武牌番茄)」中国デビュー

東日本大震災、福島原発メルトダウンにより突如奪われた農地、その福島から新天地を求めてここ雲南で農業を取り組む青年を紹介します。青年の名は武田忠通さん、30歳を越えたばかりの独身好青年です。

この青年を受け容れた中国十大農業企業「農農集団」で66ha（13,200坪）の広大な土地に日本品種「桃太郎」などの美味しいトマトが生育中です。

実は中国ではトマトも他の野菜と同じくあくまで調理し

て食べる食材であり、炒めたり、スープにしますが、生のまま美味しいトマト、しかも日本式の安全で確かな生産者の「顔の見える野菜」としてデビューします。

農業検査を回避する農業企業がほとんどの中中国で、国の基準を遥かに凌ぐ厳格な独自基準を設定し、使われる堆肥も月500トンを独自に生産、福島から来た青年の日本式こだわりの管理で、美味しいくて安全な「たけちゃんトマト」は既に成都のイトヨーカドーの店頭に並び始め、今後北京での販売を目指しています。

日本の26倍もの国土を有する中国、日本よりも広い雲南省で始まった「安心安全の美味しい野菜」を供給する大事業、悲惨な原発事故に遭遇し、新天地で農業の将来を展望する福島青年の挑戦が雲南「悠とぴあ」でスタートしました。遠い福島から雲南へ飛来して来た若い仲間、武田青年のこれから活躍が楽しみです。（南里穂＝昆明在住会員）

■25 昆明を彩るの 星たち
連載第26回 タイ族の春節

タイ族は雲南省の大きな河がある地域や平地、熱帯地域に広く居住しています。中国のタイ族人口は126万人で、そのエキゾチックな外観からもおわかり通り、ミャンマー、ラオス、タイにも分布し、インドの民族とも繋がりがあります。一国の名前にもなっている「タイ」という語は從来「自由」を意味すると説かれてきましたが、これは俗説で、中国古代語の「大(dai)」が訛ってthaとなつたというのが現在最も有力な説なのだと。そう、タイ族はもともと中国華南の発祥なのです。

タイ族は独自の文字と暦を持ち、今年はタイ族暦で1375年。タイ族暦の正月に行われる有名な「水かけ祭り」をご存知の方も多いでしょう。見知らぬ人にまで容赦なく水をかけてくるその祭りは、雲南省南端のシーサンパンナ・タイ族自治州でも毎年行われます。歌舞、太鼓の音、銅鑼の音、激しく水をかける音、歓声が街中に轟く様子はただただ圧巻の一言。様々な民族の行事がある雲南でも、最も人気のある祭りのひとつです。残念ながら今年の水かけ祭りは終わってしまいましたが、6月末の「25の夢基金」ふれあいの旅では、シーサンパンナを訪れる予定です。



▶シーサンパンナの水かけ祭り

第13回 日本雲南聯誼協会 定時総会

6月16日（日）10時～12時
八王子市学園都市センター
第5セミナー室
で開催いたします

**協会Facebook絶賛更新中！**

日本雲南聯誼協会公式Facebookページ… www.facebook.com/NPO-JYFA
「25の小さな夢基金」Facebookページ… www.facebook.com/25foundation